

平成26年5月17日、モリコロパークで「第4回介助犬フェスタ2014」が行われ、水野義則尾張旭市長、吉田一平長久手市長が来賓として招かれました。その際、尾張旭市長から、尾張旭市においても介助犬の啓発・普及に力を入れており、市職員や民生委員が施設見学をしたり、介助犬協会の職員を招き、勉強会を行ったりしているとのあいさつがありました。そして「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～が、尾張旭市にあれば…と思う」とのコメントがありました。

式典終了後、市長と政策秘書課職員の話を紹介します。

介助犬総合訓練センターは、日本で長久手市にしかありません。そうした縁もあって、長久手市は、平成24年7月に社会福祉法人日本介助犬協会と連携協定を結びました。また、介助犬総合訓練センターがご縁となり、兵庫県宝塚市とも友好提携を行いました(*)。先ほど、尾張旭市長があいさつの中で、「シンシアの丘が、尾張旭



平成24年7月の連携協定締結式の様子

市にあったら…」と話しておられましたが、介助犬を通じて、やさしさの輪を市民に広げる取組みを行ったり、宝塚市とのご縁を持つことができたりしたことなど、その効果は計り知れないものがあります。

また、県内の市長が集まる場などで、大村愛知県知事があいさつされる際、リコモ、モリコロパーク、愛知県立芸術大学、愛知県農業総合試験場など、長久手市にある施設や、その施設で行われるイベントのことを中心に話をされることもあります。他市町村からすれば、愛知県知事の話は、長久手市に関係することが多いと感じているかもしれません。

加えて、この小さな市域に大学が4つもあるところは、全国を見ても多くはありません。誤解を恐れずに言えば、仮に1つしか大学がなければ、その大学と必死に手を取り合って、互いに地域貢献、大学連携に取り組むでしょう。しかし、長久手市には有難いことに、市内に4つの大学があります。しかも、医学系、芸術系など特色のある大学もあります。さまざまな取組みが可能である一方、少しずつ遠慮しあっているようにも感じます。

こうした環境に恵まれているにも関わらず、私たち長久手に暮らす人は、そうした施設が身近にあることが当たり前で、その存在にあまり関心を寄せていないように感じます。私たちは、非常に恵まれた環境で暮らしていることに感謝することを忘れてはいはいけないと思います。

*「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～」の名称の由来となる介助犬シンシアが、兵庫県宝塚市で活動し、身体障害者補助犬法の整備に寄与した経緯から、これを縁に宝塚市と長久手市は、平成24年に「きずなづくりの誓い」のための友好提携を結びました。

市長の話を聞いて

以前担当していた観光の仕事で、長久手には「日本でここだけ！が4つもある」とPRしていました。その4つとは、①リニモ ②介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～ ③モリコロパークにあるサツキとメイの家 ④トヨタ博物館なのですが、サツキとメイの家やトヨタ博物館を目指して全国からお客様がいらっしゃる一方、市民のみなさんからは、「一度も行ったことがない」と言う話もよく聞きました。地元を見直し、「長久手の宝」を再発見することで、暮らしているまちに愛着が湧いてくるのではないかと思います。